

## 平成 30 年度 第 3 回 桜川市総合教育会議議事録

1. 日 時 平成 31 年 2 月 25 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 10 分

2. 場 所 桜川市役所 大和ふれあいセンターシトラス 2F レッスン室

3. 出席者

（構成員）大塚市長、梅井教育長、小林教育長職務代理者、  
古橋教育委員、大島教育委員、野村教育委員

（事務局）小川市長公室長、佐藤教育部長、栗林次長兼学校教育課長、  
学校教育課荒井総務 G 長、佐谷企画営繕 G 長、石塚主事、白川主事  
企画課小幡企画 G 長、鶴見主幹、枝川主事（記録者）

4. 内 容

○司会

ただいまから平成 30 年度第 3 回桜川市総合教育会議を開催いたします。初めに、大塚市長よりあいさつをお願いいたします。

○市長

本日は大変お忙しい中、第 3 回桜川市総合教育会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、教育委員の皆様には、日頃より本市の教育行政にご尽力いただいておりますこと感謝申し上げます。

さて、本日の協議案件ですが、かねてから懸案事項となっております第 2 次桜川市立小中学校適正配置基本計画について、でございます。

のちほど担当より説明いたしますので、内容についてご理解を賜りますとともに、忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。

結びに、委員の皆様におかれましては本市の教育行政に特段のご理解とご協力をお願い申し上げ、開催のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いします。

○司会

次に、資料の確認ですが、本日の会議次第としてお配りさせて頂いた「第 2 次桜川市立小中学校適正配置基本計画」「各校の児童生徒数の推移」それとお席に

配布させて頂きました、平成 26 年度に策定されました「桜川市立小中学校適正配置基本計画」となります。

それでは、協議事項に入りたいと思います。桜川市総合教育会議設置要綱第 4 条の規定により、市長が議長をすることに定まっております。会議の進行を大塚市長にお願いいたします。

○市長

それでは、議長を務めさせていただきますので、ご協力をよろしくお願い致します。協議事項「第 2 次桜川市立小中学校適正配置基本計画」について説明をお願いします。

○教育部次長

策定委員会より、適正配置についての答申を今年の 1 月に提出頂きましたので、それに基づきまして第 2 次適正配置基本計画案を策定させていただきました。そちらについて担当より説明させますので、よろしくお願い致します。

○佐谷企画営繕 G 長

「第 2 次桜川市立小中学校適正配置基本計画」について説明

○市長

ただいま、説明がありました。これについてご質問、ご意見等がありましたら、お願いします。

6 ページの「5 年程度を目安に」というのは？

○教育部次長

5 年程度というのは、なるべく早いうちにとということになります。今から始めても、地区に入って行って学校側で検討委員会を立ち上げて協議をしていくとなると 3 年から 4 年はかかるのではないかと、そういう意味で早めに行うということで 5 年を目安にしています。

大和中学校区、桜川中学校区については中学校を先にとということで考えています。現在の桜川中学校に大和中学校と桜川中学校を統合し、空いた大和中学校を小学生用に改修しまして、4 つの小学校を統合する計画でありますが、6 ページの最後にあるように、保護者アンケートにおいて、大和中学校区と統合する案を選んだ保護者と、桃山学園と統合する案を選んだ保護者がほぼ同数であったため、アンケート結果に留意しながら進める。ということでこちらについては慎重に進めていくということになります。

○市長

教育委員さんは、アンケートの結果については見ておられるのですか。  
桜川中学校区が地区によって分かれる可能性があるということですか。

○教育部次長

場合によっては、あり得るかと思います。それについては、7 ページの(2) 統合後の通学方法の後段に、「学校区ごとの統合を基本とするなかで、通学距離や通学時間、地理的な要因等、特別な事情がある場合は、保護者や関係者の意向を尊重し、通学区域の弾力的な運用を検討する」ということを明記しています。それぞれの地区ごとに地理的な要因等が異なってきますので、地区ごとにご意見を伺いながら弾力的に進めて行こうと考えています。

○教育部長

完全にどこかで線を引いて、ここからは桃山中学校、ここからは桜川中学校というようにすることも一つの方法ではあるかと思いますが、指定校の変更という事で、今言ったように通学距離が長くなってしまおうというような特段の理由があれば、手続きをして個別に学校を変えることができる。というようなこともできるように考えています。

○市長

それをやると、例えば小学校では通学距離で規定されている 2.5km、3.5km の関係で、選んだ学校によってバス通学になる、ならないというようなことが起きますよね。その判断をどのようにするのかというところが難しくないですか。

○教育部長

その距離をみて線を引くのも一つの方法かと思います。

○市長

たぶんまとまると思うのですが、大和中学校に行けばバス通学、桃山学園では徒歩通学になるような地区はどうなのでしょう。

○教育部次長

現在でも、学区外へは保護者の方が送迎をしているという状況ですので、地区外への通学については、その辺についても考えていかなければならないと思います。

#### ○市長

教育委員会の意見としては、アンケートの結果もありますし検討委員会の答申もあるわけですから、進められる所について取り敢えず具体的に話を進めてはどうでしょう。この計画を出さずに猿田小学校の件と桜川中学校、大和中学校については具体的に話を進めるということです。

「方針を出して下さい」という事で進めていただいたのですが、この状況で方針を出して話を進めていった時に、桜川中学校区でまるっきり違う意見が出される可能性もあるわけですね。保護者のアンケート結果がほぼ 50% ずつなので。そうであれば通学距離や通学バスの問題等について個別に協議を進めて行くということ。

他の学校についても将来このようにします。ということで明記されていますが、これは実施するというものではありませんよね。

#### ○教育部長

これは計画です。例えば、具体的に猿田小学校の話を進めるうえでも、何を抛り所に話を進めるのかということが問われてきます。この 2 次計画がなければ、現行の計画に基づいたものということになってしまいます。ですので、今、市長が懸念されている部分につきましては、説明にもありましたとおり、アンケート結果もありますので、それについては十分留意して進める。また、通学距離や通学方法についても留意点として述べていますので、そう言ったところは行政としては気にかけていて、実際にこの計画に従って進める時には、具体的に保護者の方々からお話を伺いながら、確認して進めて行くと言うようなことです。ですから、この計画は今後の指針として、市の考え方を市民に示させていただければと考えています。

具体的なことについては、本格的に動き出した時に決めていくというようなことで良いと考えています。これはあくまで市の考えを市民の方々に示すものだというとらえ方で良いのではないのでしょうか。そうでないと、今後、市は何を基に対応していくのかということが厳しくなってしまうと思います。

計画は計画としてとらえて良いのではないのでしょうか。細部まで細かく決めるのではなく。

#### ○教育長

どうでしょう、大きな方向性としてはこの第 2 次計画で、通学支援については、例えば、広い地域で両端がとても離れている地区の場合、我々としてはこの方針に基づいた計画と資料を持っていて、いくつかのシミュレーションをした

中で保護者が選定するときの案を示せるようにする。ということでは。

#### ○古橋教育委員

大変難しい問題だと思います。一番大事な的是お子さんをお持ちの保護者の考えがどこにあるのかと言うのがポイントだと思います。それを基にして委員の方々に検討していただき、教育委員会で一つの案としてまとめたものを提示するというのは、皆さんお待ちかねなのではないかと思っています。そして、これから市民に対してきちんと説明をするのだと思いますが、大事な的是内部でいろいろな想定をして、それに対して、こんな風に解決すればいいのかな、というような解決策の案を出していくというのがひとつ。もう一つは実際に保護者の方々に説明をすると、思いもかけないような意見もいろんな形で出てくると思います。それも大事な意見なので、それに対しても丁寧に対応して解決策を探していくということも統廃合には大事な的だと思います。

ただ、子どもの数は非常に流動的で、更に減少していて、この資料はとてもよくまとめられていると思います。特に桜川中学校区と大和中学校区の小学校 4校では、既に今年度から全ての学校で単学級なのですね。岩瀬の方はまず中学校が統合して、それから小学校という案だと思うのですが、これは 4 つの学校でずっと単学級が続いてしまうということですよね。だから小学校と中学校、桜川中学校区の動きと言うのは、早めに次の手を打っていかなければならないのかと思います。

この資料からみると、最後のページの桃山学園ですが、モデル校として造ったあの学校が、既にこの先 11 年後には 3 学年が単学級になってしまうということなのです。ですから色々よく検討して作った桃山学園でさえこうになってしまうのですから、桜川中学校、大和中学校の合併だって 15 年から 16 年先にはどうなってしまうのかと考えてしまいます。10 年先には中学校に入る生徒が単学級になってしまうことにもなってくると思います。そのような事からもこの桜川中学校と大和中学校の合併については 15 年、16 年先を考えると暫定的な統合としか考えられませんね。

#### ○市長

ありがとうございました。

新しい校舎を造るのではなく、今ある校舎を利用して暫定的にやるということになりますよね。今の古橋委員の意見を入れるべきなのかということです。1 学年が 160 人になるという時代が見えていて、でも、それは検討委員会の意見なので、アンケートの結果は半分半分という結果もあるのですが、それで暫定的に進めるかということがある、新しい校舎を造らずに、今ある校舎を利用する

ということなので、猿田小学校が羽黒小学校と一緒になればそれだけでも大きく違ってくる。どう考えても今後 10 年の話ですよね、中学校についても西中学校区も東中学校区もそれぞれ小学校を 5 年で統合し、中学校については 10 年で統合するというのもおかしい気がする。10 年後にはもう一步先に進んでしまっているのではないですか。2 年後ぐらいになってみれば、その 10 年後は間違いなくもっと先に進んでしまっていると思います。

計画書の作り方を、今ある校舎を使って直ぐに統合しましょう、ということと教育委員会としては 10 年後を考えると、中学校の数は 2 つか 3 つになりますよ、というようにするしかないのではないですか。それをここに明記しておくということです。

1 学年の生徒数が 200 人を切って 150 人態勢になってきている。そうすると市内の中学校は 2 つか 3 つになるということが見えてくるわけです。

ここで、この形で 5 年、10 年とうたってしまうとおかしくならないですか。

#### ○教育部長

アンケートをとったときに、何年先を見据えて統合すべきか、という質問をしており、その結果を反映させたものです。

#### ○市長

それは、アンケートに答えた側からすれば、今すぐ進んで合併したいとは思っていないのですから、5 年先、10 年先というように回答しますよね。

でも、行政としてはそれでいいのですか。アンケートの結果がそうであったからといって、そのままでは行政としては駄目なのではないですか。

#### ○教育部長

委員会でもこの期限については多くの意見が出されました。いついつまでということで具体的に期限を切らなければ駄目なのではないかという意見もありました。ですが、そこは敢えてぼやかした計画案にはなっているのですが、市長が言われているように 10 年先はまるっきり状況が変わってしまっているというのであれば、期限の表現についてはそれに沿った内容で考え直します。

#### ○市長

暫定的だということが分かっているのだから暫定的だという事を明記して、10 年後はこのようになります、150 人態勢なのでこうなります。という事を明記しなかったら、第 2 次の基本計画になっていないように思うのです。10 年後でも 15 年後でも良いのですが、学校の統合で新しい校舎を造るようなことはで

きないのだから、今ある校舎を利用するしかないのだし、それまでの間に早速来年からでも、できるところから統合していきましょう、ということではないのですか。その辺をここに明記しておかないとなりませんよね。そうでないと指摘を受けるようになりますよね。先ほどの古橋委員さんからの意見と同じことが出てきますよ、「暫定的なのですね」と言うように。

○古橋教育委員

事務局としては、この資料については説明会で出す予定ですか。

○教育部次長

出していく予定です。

○古橋教育委員

そうですね。それでこの計画案は検討委員さんの意見を取りまとめた案ですよ。

○教育部次長

今、お持ちになっているこの基本計画案は、検討委員さんの案を基に作成したものです。

○古橋教育委員

これから修正等をして変化するのだと思いますが、これを持って各学校を回って説明する時に、第1次の基本計画を策定してからたった5年しか経過していないのに、また新たな基本計画を策定しなければならなくなったのは、生徒数の減少が激しくて、第1次の基本計画では対応しきれないので第2次基本計画を作ったのですよということで理解を得られると思います。それで今回この様に考えたのだけれど、子供の出生数が予想をはるかに超えて減少しているという経過があるので、今回計画を出したけれども見直しを図らざるを得ないことになるかもしれません、という事を地域の皆さんにお話ししたほうがいいですよ。そういう事で、今の皆さんからのご意見、アンケートを基にまとめた案だということで、ご意見をいただくということですよ。大事な子どものことから、地域の皆さんは聴く耳をもって考えて頂けるとと思いますよ。

○市長

基本計画として、新しい校舎は造らずに既存の校舎を使って、今できることについては直ぐにとりかかって進める。そして教育委員会の意見として2030年に

はこの様にしていきます、ということをも明記して欲しいのです。実際に生徒の数は見えてきているので、暫定的にできることは直ぐに進めて、10年もしくは15年先はこうなります。そうでないと学年2クラスは保てませんということを示してもらいたい。

今回、暫定的に進めたものを10年後に大きく覆して再編することができるのかということもあるから、ある程度想定した中で進めて行かなければならない。

#### ○古橋教育委員

暫定的という言葉を使ったのは、そういう言葉を使わざるを得ない、どうしようもないですね、子供の数が少ないのだから。このまま地域を3つにしたままでも、10年先、15年先になった時には全て1クラスになってしまう。小学校ができないという事は中学校もできない、桃山学園がああいう学校が1学年1クラスになってしまうなんて考えられないですね。中学校を造ったときは各学年6クラスでしたから3学年で18クラスあったわけです。今は2クラスですから3学年で6教室しか使わないので、12教室が空き教室になっていても活用しきれないですね、もったいないと思うのですよね。

#### ○小林教育長職務代理者

ある程度決めないとなりませんよね。保護者的な立場から考えると、この後に話し合いをするときも、どのような話し合いをするかによって大きく変わってくると思うのです。実際26年にした話し合いを保護者がしたら、多分何も変わっていないという意見が強くなってしまうと思うのです。それだったらある程度はしっかりと先ほどの話の様に、まずは猿田小学校と羽黒小学校の統合を早急に進めるという事にして、その次はこの桜川中学校地区だと思ふのです。14年、15年先を考えるのであれば、中学校は先に統合して良いと思うのです。ただ小学校は今の状態を保って、15年後の人数でどちらに行くのか決める。もしかすると中学校が2つになる可能性があるのであれば、今の段階で4つの小学校をまとめてしまうと、その時になってまたどちらの中学校に分けるのかということで、また問題になってしまうと思うので、やれる所から先に統合するということをも明記していくべきではないかと考えます。

それと、一つ聞いたかったことがあるのですが、何人からが複式学級になるのですか。

#### ○佐谷企画営繕G長

お配りした児童生徒数の資料の1ページの表の上の部分に、「複式学級とは」という部分で、2つの学年の人数が16人以下、小学1年生を含む場合は8人以

下の場合ということになっています。

○小林教育長職務代理者

1 学年 2 クラスを確保するというのですが、やはり、これだけの人数が減っているのだから、複式学級にならないのであれば 15 年後の人数の状況をみながら考えて行ってもいいのではないかと。

○教育長

前からお話しがあったとおり、小学校はそのままで中学校を先に統合したほうが良いのではないかとということですよね。

○古橋教育委員

その心情はとてもよく分かります。その時の子供たちのショックは大きいのだろうと思うのですが、大和中学校区と桜川中学校区の 4 つの小学校の人数の状況を見ると、特に谷貝小学校は各学年の人数が 10 人前後なのです。6 年間同じ顔ぶれというのは、きめ細かな対応はできると思うのですが、やっぱり沢山の人と触れ合って仲良くなる等の、人間の教育の根本の切磋琢磨が少なく育ってしまうというのは、分かっているだけにどうなのかなあと、それと 1 学年 2 クラスと謳っているのにそこはどうなのかと。

大和中学校区でもやっぱり 10 数人の生徒数ですよ。それで 6 年間ずっと一緒というのは、良い面もありますが、それでは受けられない何かがあって育ってしまうというのはもったいないのかなあと。

それは西中学校区でも東中学校区でも同じことが言えると思います。

○市長

岩瀬小学校は何年ぐらいになるのですか。

○教育部次長

岩瀬小学校は 39 年、昭和 54 年です。

○市長

約 40 年、大丈夫なのですか。

○教育部長

岩瀬の東西中学校は 50 年近く経ちますが、改修をして問題ない状態です。

○市長

教育委員会として基本計画を出す前に、桜川中学校区のアンケートを新たに取って、PTA さんを集めて話し合いをした方が良いのではないですか。アンケートの結果は半々なだけけれど割ってしまっても良いのか、それとも一緒の学校を選択するのかの結論を出してもらわないと、やりようが無いのではないですか。

○小林教育長職務代理者

それを割った場合には桜川中学校の人数は大丈夫なのですか。

○市長

大和中は 4 つの小学校、谷貝、樺穂、大国、雨引の平成 41 年の児童数は 53 人なので、ぎりぎり 2 クラスはできます。桃山学園は 35 人なので 1 クラスです。樺穂、谷貝から何人か来れば 2 クラスになると言う話になりますよね。

実際に割ると言ったときにできるのかという事です。役員さんの意見はこっちを向いているが、実際の保護者の意見は半分逆を向いているという話だと、話し合いをした時にどうなるか分からないですよ。でも入って行って話し合いをしなければなりませんよね。その時にこの計画が出てしまっていて、大和中と桜川中で統合するということが明言されてしまっていると、また問題にならないですか。だから、桜川中の学校としての結論を出してもらってからの方が良くないですか。それで将来的に桃山が少なくなってしまうのは仕方ないですが、結論だけ出してもらった方が良くないですか。それで基本計画を出すのは 10 年先の話だけで良くないですか。できる所だけで、アンケートの結果で市は動けるのですよね。桜川中が桃山学園に行くと言い出すのか、このまま大和中と一緒にするのか、それからでいいですか。

なので、基本計画を出すとすれば、10 年後のあり方の話だけで良いのではないですか、中学校は 3 つ、もしくは 2 つと言うことで。

○教育部長

桃山中学校区につきましては、当初、アンケートの判断で進めて行くという事だったので、具体的に学区内の地区に入って行った時に、保護者の方から、この地区はこうなっているのだから、もう一度考え直して欲しいということで問題提起があったので、再度アンケートを取らせてください、という手法で進めて行こうという考えでいました。

今、市長の言ったように今一度アンケートでどちらかに決めて進めるという考えもあると思いますが、

○市長

今の段階でどうなっているのかという意見を随分聞くので、「どうしてなのか？」と言う意見を聞かされるので、お話しているのですが。

勿論、集めてこのようになりました。と言ったときに協議してまとまるのか？ということなのです。

○教育部長

もしやるとすれば、アンケートの取り方が難しいと思うのです。問題の本質をお互いに理解してできれば良いのですが、前回も今回も同じような意識で実施しても結果は同じになってしまう。保護者の方々に直接話を聞きながら、具体的に協議しながらアンケートを作っていないと、

○市長

実際に行って、全校集会等できちんと話をきて、このような方向で話を進めようと考えていますので、検討してください。でもいいのですが、もう少し現実味のある切羽詰まった意識を持ってもらうようにしないと、本気になってもらわないとなりませんよね。5年とか10年なんて言っていたら中学生だって小学生だって卒業してしまいますよね。

○教育部長

対象の学年によって意見が全然違ってくるのですよね。

○市長

そう、だから本気になってもらって意見をもまない大変なことになりますよ、だから皆で本気で協議して「こうしましょう、大和中とまとまりましょう」って保護者の側から言ってきてもらえればオーケーですよ。50%の保護者が違うのに、役員さんだけで「反対の意見はありませんでした」ということで進めたら大変なことになりますよね。

割るのが一番良いのかもしれませんが、実際に割るのはどうなのかなあと思うのです。意見としてはその方が良いという意見もあるのだし、数だけ合わせるのには割るのは良いのだけれど、地区で割ってしまうことを本当にやってしまったらどうなのだろう。

教育委員会では、古橋委員が言われるように10年、15年後の既に見えている150人態勢では中学校は2つか3つになるわけだから将来像としてはこうなのだを示す。29年度の出生数は既に200人を切っているわけだから、30年度の

出生数を出して、その子たちが中学校に入る 13 年後にはこれだけしかいないのだと、それで考えると教育委員会としてはこうだという形だけ示せば良いのではないか。あとは盛り上がっている猿田小学校については進めて行きましょうと、できなかつたとしても 13 年後の形はこうあるべきです、という形でまとめてはどうか。

○教育部長

それでは 13 年先の計画を一つたてます。それ以外に、できるのならやりましょうという実施計画は？

○市長

13 年後の実施計画を作れば良いのではないですか。

○教育部長

13 年後のものは基本計画になってしまうと思います。長期スパンはあくまで基本計画として、その中での実施計画という形で。

○市長

13 年先が長期と言えますか。学校に関して 13 年先が長期計画なのでしょうか。

○教育部長

現に、まだ 4 年から 5 年しか経っていないのに新たな計画が必要になってきました。ですので、基本計画と実施計画を別にたてたほうが動きやすいと思います。

○市長

だからできる所だけやれば良いのではないですか。桜川中と大和中に関しては話が盛り上がっているのだから、それを進めるかどうかの話ではないのですか。だから実施計画は無くても良いのではないですか。

○教育部長

10 年、13 年後の基本計画は、先ほど市長が言われたように将来のあるべき姿を謳っておけば良いと思います。そこに短期スパンの 5 年程度の期間の実施計画を作るわけです。短い期間での実施計画で実施していったほうが間違いないのではないかと考えます。その実施計画も常

に見直しをしながら進めて行くわけですから。

○市長

西中と東中学校区の話し合いはやったのですか。

○教育部長

やっています。

○市長

岩瀬小学校を残して、羽黒小を残して中学校は一つという案ですか。

○古橋教育委員

やっぱり、何らかの形でこの基本計画は保護者の方にお示しする。なぜかと言うと、そのような強い要望がありましたよね。早くしてほしいと言う要望に応じてアンケートを実施し、そのアンケートの結果を開示してくれるのですか？ということ言われたと思うのです。そして計画をたてるという形で進めてきたので、何らかの形で、私はこのままの形で良いのではないかと思うのですが、教育委員会ではどのような考えを持っているのかと保護者の方々は心配しているでしょうから、これはお示しした方が良いのではないかと思います。

○小林教育長職務代理者

私は南飯田小学校のアンケートを見る限りでは、納得していないのではないかと思います。この小学校の統合案について猿田小学校と羽黒小学校と南飯田小学校が、羽黒小学校を利用というのが 21 人で、岩瀬地区の小学校がラスカ周辺に統合と言うのが 25 人、統合しない、該当する案が無いが 30 人で意見が分かれていると思うのですが。羽黒小学校は羽黒小学校を利用するが半分以上です。これも桜川中学校区と変わらないのではないかと思います。

○教育長

羽黒小学校には行かないという意見を南飯田小学校ではお持ちですから、真ん中に造るのなら良いがどちらかに行くのは嫌だと。ですから場所的には東中学校区と考えていたのですが、中学校の統合とうまく絡めていかないと 3 小学校の統合は難しいのかと思います。

それと、200 人が 150~160 人くらいで 2 割ずつ減っていくとなると、3 学年中学校を合わせて市内で 500 人くらいかという話になってくる。数値的な予測となりますが、一つの中学校分くらいの人数になってくる。そういった面も地域

の皆様にお示しする必要があるのかなと思います。つくば市の北部の義務教育学校は、二つにするはずが、それで一つになったということです。こんなに減るのであれば、暫定的に二つにするのではなく一つにしてくれということで、住民要望でそのような形になったということです。ある程度将来を示すということは、判断の材料となるのかなと思います。

○市長

だとすればここに出ている、今、小林委員が言われたように、東中学校区は区内で既存校舎を利用する。

○教育部長

小林委員からあったように、羽黒小学校ということで限定してしまうと南飯田小学校の同意が得られないので東中学校の利用も想定できるので、そういったことも含めた表現で進めていきます。

○市長

中学校についてはそのようにしますか。

これはこれで出して13年後のあり方と言うのは出していきましょう。

○教育部長

それに対してどうということではなくて、問題提起ということでよろしいでしょうか。

○市長

アンケートも取ったし、いろいろな意見も出ていますが、まだ本気になっていない、実感として「やろう」という感じになっていない。

今からやっていって、今ある校舎でやるのはいいですよ。だけど13年なんて直ぐで、そうしたらまた統合しますってなってしまう。それが見えているのだから、本当に暫定的なものでしかないですよ。今ある校舎を利用して暫定的にやるのはいいが、急いで校舎を造ったって3年はかかってしまう、そうしたら10年なんて直ぐに経過してしまう。だから、こう在るべきだと言う方針を出すしかない。

○教育部次長

4ページに「本計画については、2019年度から10年を目安としながらも、社会情勢の変化や児童生徒数の動向により、計画の見直しをすることができる

こととする」と言う一文を入れてあります。前回の計画も作成して4年で今回の計画作成になっていますので、今後また4年なり5年経過して見直しをしていかないと。

○市長

ですから、ここで10年と言っているのだから、それがおかしくないかということ。10年目安で作っても、これで5年進めて10年たったら子供がこれだけしかいない、200人を切ってしまう話をしているのに、これでいいのかという話になってくる。見直しをするというのは分かるが、5年で計画をたててまた5年後に計画を組み替えることができるのか。桜川中と大和中でやりました、これは来年できるかもしれないが、ようやく学校ができたときに、子供がいないのでまたやります。というのがありか？ということ。それこそ10年しか見ていない話しで、10年以降は見ていない。これで行ったら10年後に新校舎を3つ建てることができるのか。ましてや、新しい学校に慣れたところで、また新しい学校にと言うのが見えていて、このままやるのはおかしくないですか。

今ある校舎を利用するというので、やっけて行くという判断をしてしまったけれども、ちょっと違う気がします。暫定で良いのか。

○教育部長

13年後、今年度に生まれた子供たちが中学校に入った時の姿を、その時のゴールとして掲げて、今回はそこへ行きつくための暫定的な扱いとして、このようなまとめ方としてそれまで行ってもらう。そう言う考え方。

○市長

その方が良いのではないですか。13年後の暫定的な姿をここで教育委員さんと教育会議で協議しても、13年後にどのように変わっているか分からない。

でも間違いなく、今は3つと言って方向を作っても、13年後には桃山学園を使って、岩瀬に一つで良いのでは、と言うようになるかもしれない。今の数はあり得ない、直すのも建て替えも必要になってくるのだから、それを考えたら3つになるという話をしておいて、13年後には2つになるかもしれません。それを出しておいて教育委員会として13年後の人数を見てもらって、それじゃあ学校はこう在るべきだという姿を掲げてもらう。その間に検討委員会では、こんな意見がありましたということで、今ある校舎は利用していきましょう、とするのが良いと思います。13年後の姿を見せたらそれに向かって進んでいくような気がする。親の見方が変わってくると思います。

○古橋教育委員

推定値というのは、10年先でも、13年先でも、15年先でも出せるのですから、その推定値を出して、学校はこのような人数が予想されるから、中学校は3つか2つで間に合ってしまう、というようなことでお示しするというのは大事ではないかと思います。情や勘で物を考えるのではなく数字というのは大事ですね。

○市長

資料の小学校1年生の下に、6歳から0歳までのデータを加える。そうすれば41年から47年までのデータではっきりとした数値で示せる。0歳児が中学校に入学するのは13年後になるわけですから。

○教育部次長

それでは、いろいろなご意見を頂きましたので、将来のこともふくめて、もう一度修正しまして、それを基に総合教育会議を開きたいと思います。それでよろしいでしょうか。

○各委員

それでいいです。

○市長

協議事項については以上です。ありがとうございました。

○事務局

次にその他でございますが、事務局からは提案がございません。委員の皆様から、ご意見がありましたらお願いします。

○小林教育長職務代理者

最近、新聞で気になる記事があったものですら。中高一貫校を県がやろうとしているということなのですが、これはちょっと見逃せないところかと思いで。

○市長

この辺だと下館、下妻ですか。

○小林教育長職務代理者

小中学生が減少している中で、市内の中学生在が移動する状況になってしまうのかと、2020年から下館一校が始めるという話もでていましたので、何か分かれば教えて頂ければと思ひまして。

○教育長

新聞の記事だけですので、この後に説明会があると思ひますので、それからでないと何とも。規模としては一クラスと言うことでしたよね。

○小林教育長職務代理者

今はその2校だけかもしれませんが、いずれはもっと増えていく可能性はあるのですか。桜川市の学校も人数がかなり少ない状況で、中高一貫校に引っ張られてしまったら大変だと思ひたので。

それともう一つ、予算の話になってしまうのですが、つくばみらい市の自転車の保険負担の記事が出ていて、最近では自転車事故で大きな損害賠償を請求されるケースがあるので、つくばみらい市では生徒が事故の加害者になってしまった場合、賠償金を保証する内容と出ていたのですが、桜川市でも自転車に乗ることがあると思ひのですが、桜川市ではどうなのかと思ひまして。

○教育部長

保護者の方が保険に入るか入らないのか判断して加入するものだと思ひのですが。

○小林教育長職務代理者

つくばみらい市ではどのように払うのでしょうか。

○市長

確認してください。

○事務局

それでは、以上をもちまして第3回総合教育会議を閉会といたします。ありがとうございました。